

いのちの言の葉

「ジャンケンなんかで決めないで」

射水市立浅井小学校(大門小学校に統合のため平成18年3月に閉校)

浅井ミニ水族館が生んだ珠玉の言葉

射水市立浅井小学校では、地域の豊かな水環境を生かしてかち込み式の井戸を掘ったり、浅井ミニ水族館と称して20を超える大小の水槽に地域のいろいろな魚を飼育したりしていた。このミニ水族館の運営は、毎年5年生に委ねられる。すなわち先輩から受け継いだ魚たちを一年間大切に飼育し、年度末には4年生に引き継ぎをするのだ。



水族館引き継ぎ集会に向け、4年生に早く魚の特徴をつかみ、愛着をもって育ててもらおうと5年生はクイズや紙芝居などグループでそれぞれ工夫を凝らして準備した。

そしてそれぞれの魚のPRも終わり、いよいよ魚の担当を決める話し合いになった。ところが、4年生の担当希望が、トミヨやメダカ、アユカケなどの見た目がかわいい魚たちに集中してしまったのだ。どうやって決めよう、ジャンケンもやむなしか・・・と司会者が動こうとしたその時、A子とK子は言った。

「ジャンケンなんかで決めないで! 私も去年は今の4年生みたいだったかもしれない。でも、どの魚だって毎日毎日世話をしていたら、かわいくなる。愛着が出てくるよ。」

「そう。私たちが預かってきたのは、魚たちのいのちなんだよ。いのちを預かるというのに、ジャンケンなんかで決めてほしくない。」



4年生のみんなは、はっとした。司会者は話し合いを一旦保留にし、午後からもう一度続きをすることを提案し、みんなはそれまでの間にもう一度水槽の魚の前で考えることにした。

午後からの話し合いでは次々と魚の担当が決まっていっていった。どれ一つ敬遠されることなしに・・・子どもに教えられた一コマである。